

アスベスト問題の現場から

読売新聞東京本社 社会部

記者 木田滋夫

2008・12・11

違法な改修と解体

(07/11/25)



- ◆ 2006年度に63件
- ◆ 粗雑な養生～飛散事故まで
- ◆ 違法工事の原因
 - ①発注者の説明を鵜呑み
 - ②甘い事前調査
 - ③高額な工事
- ◆ 悪質事例ほど通報で発覚

違法な改修と解体のまとめ

◆ 啓発と監視

①住民の通報がカギ

②行政の巡回、現場への立ち入り

③千代田区方式

◆ 建物解体のピーク 2020～2040年

◆ 対策

①工事会社の資格制導入

②安全・低額な工法の確立

③公的な補助

トレモライトの国内使用が発覚

(08/1/5)



- ◆ 公共施設8か所で検出
- ◆ 自治体の75%が未調査
- ◆ 実際の調査率はもっと低い？
 - ① 基発188号で「6種調査」
 - ② 図面、目視のみで判断

トレモライト、民間建物にも

(08/1/30)



- ◆ 都内3か所の建物で
- ◆ 氷山の一角？
- ◆ 吹き付け材に混入
- ◆ 使用実態は不明

トレモライト問題のまとめ

- ◆ 主に1975年以降に使用か
- ◆ 配管での検出例も
- ◆ 関係者は輸入実態を知る？
- ◆ 公共施設の再調査進む。6種類分析が浸透
- ◆ 対策
 - ① 輸入量、流通経路の解明
 - ② 分析精度の向上

大気中のアスベスト調査

(08/3/29)



- ◆ 白石綿だけで「問題なし」
- ◆ 工場用の測定方法を流用
- ◆ 現実に青石綿見落としも
- ◆ 今年度分も表現改めず

大気中のアスベスト調査まとめ

- ◆ 解体現場で飛散見落としの可能性
- ◆ 「偽りの」安心感？
- ◆ 調査結果の信頼揺らぐ
- ◆ 自治体調査にも影響
- ◆ 対策
 - ① 6種分析方法の確立→技術的な困難さも
 - ② 環境基準設定の検討

不服審査で「不認定」取り消し

(08/9/17)



- ◆ 「迅速救済」を重視
- ◆ 医学的厳密さ→柔軟な解釈へ
- ◆ 医学的判定基準の見直し
 - ① 石綿肺の扱い
 - ② 良性石綿胸水の扱い

過去の調査で石綿見落とし

(08/10/3)

- ◆ トレモライト問題で再調査
- ◆ 53公共施設で「誤判定」
- ◆ 含有率9～24%
- ◆ 自治体の釈明
 - ① サンプルが異なる
 - ② 分析精度が向上



過去の調査の信頼性揺らぐ



石綿見落とし問題のまとめ1

- ◆ 分析機関の技術力は大丈夫か
- ◆ 原因
 - ①技術力を評価する仕組みの欠如
 - ②参入ハードルの低さ
- ◆ ずさんな分析結果の例
 - ある作業環境測定機関の報告書
 - 【ケイ酸カルシウム板】
 - 青石綿21・86%、白石綿11・65%
 - 茶石綿22・11%、
 - アクチノライト・アンソフィライトの混合物38・76%

石綿見落とし問題のまとめ2

- ◆ JIS A1481への批判

専門家「再現性が低い」

独自方法で結果を再確認する分析機関も

- ◆ 対策

①分析機関の技術力評価と認証制度

②分析者の全体水準の底上げ

③分析方法の検証

アスベスト問題の今後

- ◆ 最終処分場の寿命とアスベスト廃棄物
- ◆ 民間建物の解体・改修
- ◆ 立体駐車場、エレベーターシャフトの石綿

ご清聴ありがとうございました

アスベスト問題の情報提供をお待ちしております。

読売新聞東京本社 社会部 木田滋夫

東京都千代田区大手町1-7-1

電話 03(3217)8074

ファクス 03(3245)1277

メール shakai@yomiuri.com